



2021 初夏号

発行元：自由民主党富山県議会議員会
米原 蕃・米原蕃後援会

私たちのうつくしいふるさと

となみ野



ごあいさつ

真夏の到来を待つ今日この頃です。
平素より格別のご芳情に深く感謝を申し上げます。

世の中はコロナウィルス一色となつてしましました。待ちに待っていたはずの東京オリンピック・パラリンピックが、今ひとつ盛り上がり欠けるのも致し方ない感じがいたします。

政治の世界では、昨年十月の知事選挙において新田八朗新知事が誕生いたしました。富山県にとっては重要な時期の交代であり、新知事には県の将来を一身に担うお気持ちでのご精励いただくことを心より期待するものです。

十一月には砺波市長選挙が行われ夏野修さんが無投票による三選をはたされました。「さらに上の砺波」を掲げての当選でございますので、いよいよのご活躍を心より祈念申し上げます。

また、国政選挙においては、今秋までに第四十九回衆議院議員選挙が施行されます。ほば、任期の四年を全うしての選挙となりますが、どのような選挙になるのか。また、来年の夏には第二十六回参議院議員選挙も控えております。

このような政治状況にあって、地方の改革、改革は進むのでしょうか？さまざまな政治課題が山積する中、将来、どこへ社会が向かうか。重点施策を検討し、基本的な方向を見極めて行くことが課題と考えております。

今年も二月議会の予算特別委員会において質問をさせていただきました。私が関心を持って聞いたのは主に次の点です。

■コロナへの対応、克服が社会の大きな転機になるのではないか。この際、都心部等に集中している仕事を地方へ分散し、企業ごとと移転させるなど富山県として果たせる役割はないものだろうか。

■今、富山県の抱えている課題は、富山県一県では解決できない事が多い。広域観光や

県際道路に関する事など、北陸三県さらに岐阜、新潟、長野とも連携をとるべき課題が多いと考えます。

■富山県の農業環境の整備率は高いが、今求められているのは新しい農業への挑戦ではないか？若者や女性の就農率も増えており、農業も高付加価値商品の生産や対外輸出を見すえ、ビジネス感覚を取り入れたワクワク、ドキドキする富山県独自の農業があるべきではないだろうか？

■我が国の中山間地においては、長い間、農業、林業ともに大きな役割を果たしてきたが、現在では担い手の不足、低所得化など、多くの課題を抱えている。中山間地が維持できないと国土の保全にも大きな影響が出てくる。今後の維持・発展のために早急に対策を講じるべきと考えます。

■ハコモノの話になると、とかく「造っただけ。保守、管理が大変」などと反論が出るが、活用することを前提に収益をあげていけば、観光、イベント、会議など人の交流には欠かせない政策だと考えます。

■砺波市では厳しい環境ではありましたが、チューリップフェアを開催することができました。ご尽力をいただいた皆様に感謝と御礼を申し上げます。ブルーインパルスにも花を添えてもらいました「コロナとブルーインパルス」。七〇周年の節目として忘れられない年になったと思います。

■終わりになりましたが、いよいよ暑い毎日が続いてまいります。くれぐれもご自愛の上、ご健勝にてお過ごしください。ようこそご祈念申し上げます。

令和三年七月

富山県議会議員
自民党富山県支部連合会 常任顧問

米原 蕃

活動報告



2020年12月13日 菅総裁との意見交換会



2020年11月5日 政調会現場視察において
新しくなるチューリップ公園を視察



2021年1月27日 知事への要望活動



2021年1月27日 野上農林水産大臣への要望活動



2021年6月13日 第1回TONAMI女性未来塾において
橘慶一郎衆議院議員を囲んで参加者皆さんと
(注)写真撮影時のみマスクを外しています。

米原 蕃 後援会事務所
www.tonamino.com



富山県砺波市栄町6-27
TEL.0763-33-4511
FAX.0763-33-2321
皆様のご意見をお待ちしております。

米原蕃委員の質疑および答弁（要約）



米原委員 コロナによる社会の危機を何としても回避しなければならぬという思いが世界中にあると思うのであります。

新田知事は大変な時期に知事になられた。しかし、世の中には「災い転じて福となす」という言葉もございます。後で振り返ったときに、富山県は令和三年が転機の年であつたと、新田知事のあのときの決断が富山県を変えたんだと言われるように、政策を思い切つて実現してほしいと思つのであります。

「コロナ禍の下、大きな転機が訪れたと受け止め、特別な意識で臨むべき」

さて、来年度の県予算でありますけれども、6、335億円余、政府はコロナ対策、経済対策にしっかりと対応していると私は受け止めますし、また皆さんもそう受け止めていらっしゃると思います。

コロナ対策、景気対策による経費の大幅な増加により、対前年比624億円の増となつて、6、700億円余の一般会計にするということであります。特別会計を入れる

ますと9、000億を超えて一兆円近い予算ということであり、過去最大の規模になつたと思います。

コロナ感染、県内経済への支援、国土強靱化、特にコロナについては対策の成果が一日も早く出るように期待をするものでありますけれども、同時に知事がおっしゃる



ところの「ワクワク」が、県民から感じ取れるよう、さらに尽力をいただきたいと思います。

そこで、知事に伺いたいのでありますけれども、富山県の発展、そして県民の幸せのために、知事はどのような心構えで県政運営に臨んでいらっしゃるのかまず伺つておきたいと思います。

新田知事 昨年の十一月九日に就任をしてから二日目でしたか、北陸新幹線の敦賀ま

での工事が大幅に遅れるというニュースが入ってきました。また、新型コロナウイルス感染の再拡大、年明けの記録的な大雪、砺波市井栗谷での地すべり、さらに小矢部での高病原性鳥インフルエンザなどなど、県民の命あるいは暮らし、そして健康に関わる重大な事態が続いて起きてまいりました。これらの事案に対しまして、県知事として正面から向き合い、適時適切に全力を挙げて取り組んできたと考えておりますが、改めて県知事という職の責任の重さを痛感したところです。

一方で、コロナの終息を見据えての富山県の発展、そして県民の幸せに向けて種をまいていくことも大切な仕事だと認識をしております。その上で、この富山八策、そして十八の具体策を一つずつ着実に進めていくことが、将来の富山県づくりにつながっていくと信じてこれからも進んでまいりたいと思います。

さらに、先般立ち上げました富山県成長戦略会議には、突き抜けた議論を期待しているところでございます。県民の皆さんの意見ももちろん聞きながら、ワクワクする富山県のために働いていきます。

米原委員 いろいろと夢がたくさんあつて、実現するということ大変でしょうけれども、しっかりと取り組んで頑張つていただ

誘致競争に勝ち抜くということで、新年度、とやまホシシャ引つ越し応援特別枠を創設させていただきたいと考えております。

自治体が、取り組む企業などの「誘致」競争のポイントは何か

米原委員 なぜ、こういった問題に政府は、しっかりと取り組まないのかなということとを本当につくづく思います。

富山のように便利で恵まれたところはない、新幹線に二時間も乗れば東京へ行けると。こんなすばらしい地域はないと思ひますので、もっとしっかりと中央のほうに向けて、首都圏へ向けてPRに取り組んでいただきたいと思います。

次に、今のサービス産業は大変厳しい状況にあるということだと思ひます。県もいろんなことに支援をしてきたつもりであります。今、どんなふう富山県の現状を捉えていらっしゃるのか、中谷観光・交通振興局長の所見を伺つておきたいと思ひます。



中谷観光・交通振興局長（当時） 新型コ

ナの影響によりまして、昨年の本県の延べ宿泊者数につきましては、令和元年に比べまして約45%の減、特に外国人については、約85%の減となつておりまして、観光宿泊事業者においては厳しい状況でございます。

先ほど災いを転じてというお話がありました。この機会にぜひ県民の皆様には本県の地元のすばらしさを知つていただ

米原委員 既にご承知かと思ひますが、失業者がもう二百万人に迫つていると報道されているわけです。本当に困つておられる方もたくさんいらっしゃるわけで、こうした状況をしっかりと見届けて、支えていくことも大きな課題ではないかなと思ひます。



で、この後一緒になつて本県をPRしていくということにつなげていきたいと思つております。さらに、GO TOトラベル終了後を想定して、今度は北陸三県が連携して近隣県民向けの宿泊割引を実施したいと考えております。

本県ならではの観光資源を生かした新たな旅行商品の開発や旅行者の受入れ環境整備に対する支援などにより、将来に向けた誘客、観光消費の拡大を図つてまいりたいと考えております。

北陸は一つ。さらに飛越、信越もみんなで力を合わせ地域の発展を

次の質問に入りますが、北陸三県がしっかりと連携してやっていくこと、新幹線だけで

はなくて、もっと幅広く交流していくことが北陸三県のプラスになると思ひます。さらに岐阜県ですが、こういった地域についてもしっかりと取り組んでいただきたい。私が以前に、「この際、富山高山空港にでもしたらどうか」ということを言った話ですが、私は飛騨というものがひとつの考えとしてあるので、富山飛騨空港にするとか例え話を申し上げた。

富山空港は、ローカル空港として非常にいい空港で、使い方はいろいろあると思う。やっぱり富山だけではなくて、北陸三県あるいは岐阜も長野も新潟も入れた状況で進めていくということが富山県にとつて大事ではないかなと思ひます。

知事もいろいろと考えていらっしゃると思うんですけれども、所見を伺つておきたいと思ひます。

新田知事 先月、石川県の谷本知事と懇談をする機会がありました。北陸はひとつという共通認識に立つて、北陸新幹線のこと、また広域観光のこと、そして県際道路のこと、いずれも県境を越える話ばかりでございます。こういったことについて具体的に取組を進めていくこととしました。そしてまた、このような懇談会を今後も継続的に実施していこうということでも合意をしました。お互い知事同士、膝を突き合わせて、会つて具体的なテーマに基

きたいと思ひます。

次の質問であります。新型コロナ禍によつて人口集中型の首都圏でありますけれども、テレワークやリモート会談、デジタルシステム化が大きく取り入れられているということでもあります。

首都圏の本社機能や人材は、必ずしも首都圏に集中しなくてもよいのではないかと一意見があります。

今後どのように本県の強みをアピールしながら本県への移転につなげていくのかということについて、布野商工労働部長に所見を伺つておきたいと思ひます。



布野商工労働部長 首都圏からの本社機能の移転につきましては、

地方拠点強化税制が設けられました平成二十七年以降、昨年度までに四件の施設整備計画を認定しております。

今年度は、現時点で首都圏からの企業移転につながつた事例はございませんが、新型コロナの感染拡大、それに伴うテレワークなどデジタル技術の活用が加速する中、首都圏等の幾つかの企業からは、本社機能の移転等に関する相談をいただいております。

日本経済団体連合会も、東京からの移転を「実施」「検討中」「今後、検討の可能性あり」と回答した企業の割合が22・6%と答えております。コロナ禍前の2015年実施のアンケートの結果では7・5%となつておりまして、比較して15・1ポイント増加しておるということであります。

こうした動きを本県に取り込み、他県とのいてお話をし合う、それぞれ有意義な機会であつたという評価で一致をしたところでございます。

米原委員 次の課題について質問させていただきます。富山県農業政策について伺いたいと思ひます。

近年、大企業が先端技術を活用した農業支援分野に本格参入するといった報道がなされております。高齢化や担い手不足など話題が多い農業分野を新たな商機として捉えています。

富山県においては、農地の整備などは、今日まで、ずっと皆さん本場に一生懸命努力をされてこられましたので、そういうところは進んでいるけれども、一体全体、富山の農業を取り巻く環境にどういう認識で取り組んでいらっしゃるのかというのは、見えにくいところがあるような気がしてなりません。どういった認識を持っていられるのか堀口農林水産部長の考え方を伺きたいと思ひます。



堀口農林水産部長 県ではこれまで、富山県

農業・農村振興計画に基づきまして、将来にわたる発展する競争力の高い農業を基本目標の一つに掲げ、各種施策に取り組んでまいりました。

以下は、米原蕃のホームページ「となみ野」をご覧ください。QRコードで、ホームページ画面を見ることが出来ます。

